

2018年度第1回スーパーモト委員会 議事録 【ダイジェスト版】

開催日 : 2018年7月17日(火) 午前10時30分～午後3時

開催場所 : MFJ 会議室(東京都中央区築地3-11-6 築地スクエアビル 10F)

1. MFJ ライセンス申請状況報告

2018年度MFJスーパーモトライセンスの申請状況が事務局より報告された。

7月13日現在で、スーパーモトA級165枚 B級104枚、合計284枚で前年同月比89%にとどまっており、特にA級の継続申請数が低調である。地区別では北海道、東北地区のみが昨年を上回っている状況。2018年度前年からの未継続者全国で116名である(A級が62名、B級が54名)。

2. 2018全日本スーパーモト・エリア選手権 開催状況報告

1) 全日本スーパーモト選手権

第4戦までの開催状況が事務局より報告された。(第4戦の九州大会は西日本豪雨の影響により中止とされたがエントリー台数は参考までに集計)

観客数は大会平均367名で前年比80%である。エントリー台数は、1大会平均でS1PROクラスが15台(前年比102%)、S1OPENクラスが20台(前年比119%)と増加傾向にあるが、S2クラスは各大会1桁のエントリー台数になっており減少傾向が顕著である。全日本全体としては前年の93%にとどまっている。

2) エリア選手権

- ・東日本エリア 4戦中2戦終了。エントリー台数(B級)は、S1OPENとS3クラスで前年を上回っているが、S2クラスは前年の70%程度に減少している。
- ・中日本エリア 4戦中2戦終了。2大会とも全日本併催でないエリア単独開催であるが、エントリー台数(B級)は、すべてのクラスで昨年を上回っており、地域別のライセンス取得状況が減少傾向であることとは合致しない状況である。
- ・西日本エリア 4戦中2戦終了(1大会は中止) エントリー台数はいずれも減少傾向であり、S2クラスは各大会ともB級は1台となっており、厳しい状況になっている。

3. 2018全日本スーパーモト選手権シリーズランキング中間報告

全日本スーパーモト第3戦終了時点のポイントランキングが報告された。

4. 2018全日本スーパーモト選手権報告等

1) 全日本スーパーモト選手権第4戦 HSR九州大会代替開催について

7月8日に開催予定であった全日本スーパーモト選手権第4戦 HSR九州大会が西日本豪雨の影響により中止されたことが報告され、HSR九州より提案された代替開催の有無について審議された。

■代替案

代替日程案① 9月29,30日(日) HSR九州サーキットコース

代替日程案② 10月27,28日(日) HSR九州ドリームコース(西日本エリア第4戦に併催)

★提案事項 ポーナスポイント付与により参加意欲を向上させたい。

■参加者の主な意見(選手会による意見集約)

- ・代替開催の賛否はおおよそ半々である。
- ・九州のライダーはエリア併催でも開催してほしいという意見もあるが、ドリームコースだと参加者が集まらないという懸念はある。近くなるほどやってほしいという意見が多い。
- ・ダブルヘッダーはできれば避けたい。タイトスケジュールも仕方ない。

- ・中止の決定が遅かったので、途中まで行っている参加者もいてコストがダブルになってしまう参加者もいるため、厳しいのではないかと。
- ・主催者や MFJ が決定したことには従う。
- ・代替開催は無しにして欲しい。年間予定で動いているのでコスト面が厳しい。来年 2 戦はどうか？
- ・いずれにしろ早く告知が必要である。

決定事項

総合的に判断した結果、HSR 九州大会中止の代替開催はしないことが決定された。

2) 全日本スーパーモト選手会の設立報告

■選手会設立の主な目的

主催者と選手間の連絡・調整(情報の周知協力、全日本参加選手の意見のとりまとめなど)

■2018 役員(任期 1 年、毎年全日本最終戦にて改選) ※各クラスの代表者というのはいない。

選手会長: 森田一輝選手(SRF 宮城・2017S1PRO チャンピオン)

副会長: 古川和由選手(東京・S1PRO)、増田智義選手(静岡・S1PRO)、川上祥史選手(熊本・S1PRO)

3) 全日本申し送り事項確認

第 3 戦エビス大会までの申し送り事項が事務局より報告された。

5. 2019 全日本/エリア規則・運用等、活性化策

1) 全日本スーパーモトの予選ヒートレースの実施有無について

全日本スーパーモト S1OPEN および S2 クラスでは、計時予選(タイムアタック)とレース形式の予選(ヒートレース)を併用しているが、現状では参加台数が少なく、ヒートレースは決勝グリッド決めのためのレースになっている。ヒートレースをなくして、決勝を 2 レースにしてはどうか？との意見もあるため、2つの形式の併用の必要性も含め、省略した場合のレースフォーマットの採用について審議された。

■現行のレースフォーマット

公式練習(出走任意) → 計時予選 → レース形式予選 → 決勝

■レースフォーマット変更案

予選ヒートレースは行わず、予選は計時予選のみとし、決勝を 2 レース制とする

公式練習(出走任意) → 計時予選 → 決勝 1 → 決勝 2

決定事項

- 2019 年より S1OPEN クラス、S2 クラスは、レース形式の予選(ヒートレース)をなくして、決勝 2 レース制とする。(呼び方は、「決勝レース1」、「決勝レース2」で統一する。)
- レースフォーマット
公式練習→計時予選→決勝レース1(予選結果でグリッド決め)→決勝レース2(決勝レース1の結果でグリッド決め)
- 決勝各レースの周回数は違ってもよいものとし、大会ごとに決定する。
- 各決勝レース結果にポイントが与えられる。
- S1PRO クラスも同様のレースフォーマットとする。
- S1OPEN、S2 クラスの賞金は主催者の任意とする。

継続審議内容

◎エントリー料の値上げについて(現在は 15,400 円(税込))

…運営の手間や賞典等経費増加、増税予定等を考慮する必要あるため、次回委員会までに各主催者にて検討いただき意見を集約することとなった。

2) S1PRO クラスの現行施策の評価

＜現在の S1PRO 施策＞(2012 年から継続)

1. レースフォーマット (予選～決勝 2 レース制)
2. (ドライ)タイヤ 1 セット制限
3. 決勝レース周回数による差別化 (コース設定は共通)
4. 賞金 (1 位 ¥25,000 2 位 15,000 3 位～6 位 5,000)

決定事項

- 決勝 2 レースは継続し、レースフォーマットは既出の S1OPEN、S2 クラスの決勝 2 レースフォーマットに合わせ変更する。
- タイヤ 1 セット制限も継続する。
※シールは使用せず、ペイントマーキングのみで対応し、運営上の負担軽減を図る。
- 決勝周回数は他クラスと差別化し、コース設定は施設、主催者によって可能なところは対応する。
- 賞金設定は最低金額とし、増額は任意とする。

3) 全日本スーパーモトのシリーズ全体の活性化策

S2 クラスの参加者が減少していることに対応を検討するにあたり S1PRO クラスを頂点とするシリーズ全体およびエリア戦の参加者増加策についても合わせて審議された。

- 検討題材 1 全日本 S2 クラスの参加台数減少の対応策について
- 検討題材 2 S1PRO クラスの役割と新たな施策の検討
- 検討題材 3 エリア選手権活性化

■各施設のスクール・走行会等参加状況について各主催者より以下の通り報告された。

HSR 九州 スクールは横ばい。走行会に来るライダーは多い。

弘楽園 走行会、遊びレースは結構集まる。

SUGO モタゴッコ(ノーライセンス)は毎回 20 台くらい集まるが、若い方はいない。

エビス モタード車両は少ないが、バイクの走行は増えている。

■全日本・エリア活性化と参加者増加策に対する意見

- ・ 車両の状況を考えなんでもありのクラスをつくってはどうか？
- ・ エビスサーキットで開催していた耐久は砂利とロードコースが走ればどんな車両でも可。
- ・ 古い公認切れの車両でもレースに参加できるようにしてはどうか？
- ・ 選手会にも方向性についての意見を聞いてはどうか？
- ・ 全日本は S2 の台数が少なくなってきたら、排気量オープンにするしかないのでは？
- ・ 250cc のモトクロッサーは売れてるが、モタード車は中古で売れてない。
- ・ 250cc だとエンデューロに流れているのではないか？
- ・ ライセンス数に対して全日本開催数は多くないか？
- ・ 大会自体をライダーが多いエリアでやらないと人が集まらないのではないか？
- ・ 参加者が増えるかどうかは、各施設のスクールや走行会に着ている人たちがレースに出るか出ないかだと

思う。

- ・ バイクを壊してまでレースで走りたいという人が減っているだけで、全体として人数はいる。
- ・ 昔は魅せるモタードをやっていたが、今は速さを求めてハングオンで走る。そういう意味では、エキジビション的なものをやっても良いと思う。本来のモタードとは少し違って来たという感覚もある。

などの意見が出され、現状についての意見や選手へのヒアリングなどを行い、継続審議することとなった。

また、全日本スーパーモトの活性化策として、**本来のスーパーモトの魅力や楽しさを全日本スーパーモトに取り込み参加者増員につなげる「スライドコンテスト」**開催案がだされ、テスト開催に向けて検討されることとなった。下記の提案がなされた。

4) 参加者のマナーアップについて

大会会場内での参加者のマナーアップを喚起するよう指摘を受け、特に、パドックでの飲酒やバーベキューについて、他のカテゴリーから来る人や新規参加者への弊害となり、なによりお客様目線でも気持ち良いものでなく、スーパーモト全体の価値を下げることにつながることから、下記事項を公式通知およびブリーフィング等にて啓蒙することが事務局より要望された。

1. 会場内での火気厳禁エリアの徹底

※ パドックでBBQをしている参加者も時々見受けられ、施設ごとにBBQが可能な場所を指定いただく等。

2. パドック内での宿泊時、周囲に迷惑をかける行為の禁止(飲酒や深夜までの騒ぎ声など)

3. 場内移動時に競技用車両を含む二輪乗車時のヘルメット着用

5) 暫定取材プレス対応

暫定プレスの取材対応についての新たなガイドラインが事務局より報告された。

6. 2019 カレンダーについて

2019 年全日本スーパーモトの暫定開催日程案が確認された。下記の日程を軸とし、全日本他種目の開催日程を確認した上で各主催者にてエリア選手権も含めて次回委員会までに調整されることとなった。

<2019 全日本スーパーモト選手権開催日程案> **※変更の可能性あり**

第1戦 4月	会場調整中
第2戦 5月12日	HSR九州
第3戦 6月16日 or 6月9日	エビスサーキット
第4戦 6月30日 or 7月14日	世羅グリーンパーク弘楽園
第5戦 8月25日	スポーツランド SUGO
第6戦 9月22日	名阪スポーツランド
第7戦 10月	美浜サーキット
第8戦 11月10日	茂原ツインサーキット

以上